

## JOMF 派遣医師便り (2017. 1)

### ◆シンガポール◆

#### 蚊媒介ウイルス感染症

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

昨年8月末、シンガポールでジカウイルス感染症の国内発生例が確認された。7月末から原因不明の発疹、発熱を伴う疾患が多発していることに気づいた開業医が当局に報告し、精査の結果、ジカウイルスが確認され、同様の症状を示していた患者を調べたところ、集団的に発生していることが確認されたものである。

デング熱と同じネッタイシマカが媒介するウイルス感染症であるため、その後の流行が懸念されたが、グラフ1に示す通り、新規の患者発生はほとんど確認されなくなってきている。

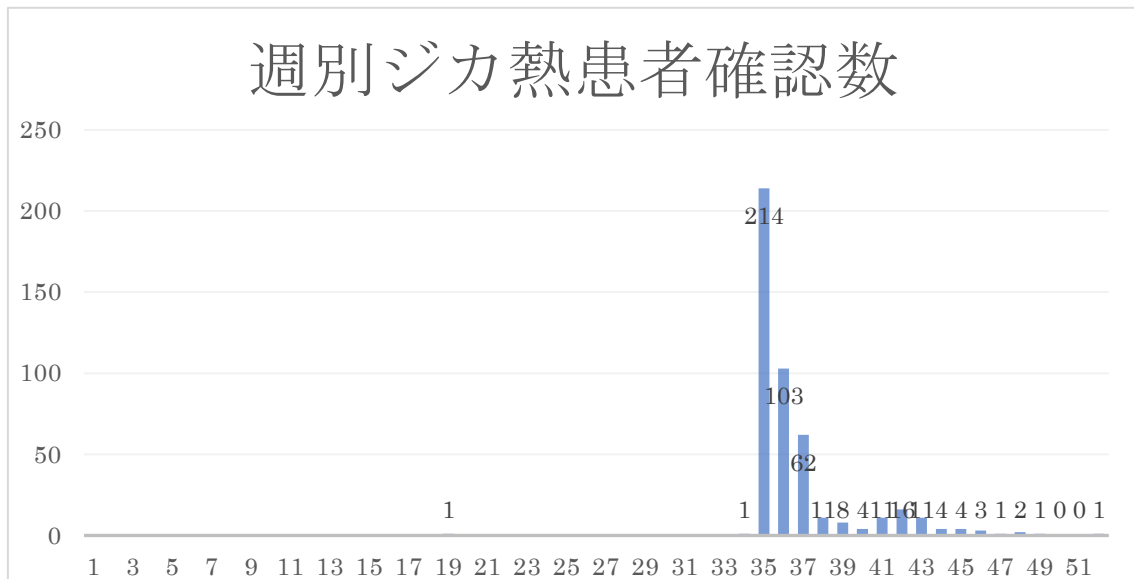
その理由は定かではないが、①9月は例年に比べ、雨量が多かったため、いつもなら滞留しているはずの水が流され、蚊の卵も流されてしまった、②9月7日以後、症状のある妊婦以外は検査にお金がかかる(150シンガポールドル程度)ことになったこと、③基本的には良性の疾患であり、デング熱に比べて症状も軽く、また、特別な治療法もないことが知られるようになったなどから、患者が受診しなくなったことなどが考えられるが定かではない。

デング熱もネッタイシマカにより媒介されるウイルス性疾患だが、今年の初めデング熱患者が多発し、年間3万人を越すのではないかと危惧されていた。ところが、グラフ2のように6月(23週頃)ぐらいから平年並みとなり、9月半ば(37週頃)ぐらいから平年を下回るようになった。①の説もあながち、ただの憶測ではなさそうである。

ちなみに、チクングニヤ熱というこれもまた、ネッタイシマカに媒介されるウイルス性疾患があるが、これは今年の確認患者数は38名で過去5年のメジアン31名よりも若干多い程度であり、10月から11月にかけて週4人が最多で特に目立った流行はなかった。患者数が少ないので、蚊の数の指標にはならなそうである。

シンガポールの保健省のホームページにも記載されているが、ジカウイルス感染症は1950年代から既に東南アジア地域で確認されているとのことである。そして、シンガポール感染症センター(CDC, Communicable Disease Center)によれば、この地域の既感染率は10-20%程度であると考えられるとのことである。ただ、ブラジルでジカウイルス感染症が爆発的に確認されたことを受けて、2015年末からシンガポールで4,000件以上の国内の検体が調べられたが、この8月まで1件もジカウイルス感染症が見つからなかったことと矛盾する結果となっている。ジカウイルスの抗体検査は、特異性がやや低くデング、チクングニヤウイルス抗体と混同される可能性があることが知られている。今後のさらなる研究が待たれるところである。

グラフ 1



グラフ 2

